

# 令和4年度 自己評価

佐川町立黒岩小学校

A:十分満足 B:おおむね満足 C:もう少し努力すべき D:大いに努力が必要

評価項目	佐川町の施策	本校の取組	成果(○)と課題(●)	自己評価
豊かな心と健やかな体の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○道徳・いのちの教育の推進 道徳教育の推進, いのちの教育の推進 地域に根ざしたボランティア教育の推進</li> <li>○いじめと不登校への対応 相談活動の充実, 関係機関との連携強化 いじめ防止対策の充実, 不登校児童への支援</li> <li>○健やかな体の育成 健康教育の充実, 食育の推進, 学校体育の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳授業の充実 考え議論する道徳の授業を目指す</li> <li>・スクールカウンセラーとの連携 SCを交えた支援委員会, Q-U分析</li> <li>・仲間づくりへの指導 朝会での仲間づくり活動, 異学年交流</li> <li>・学校体育の充実 クロスケ(毎木曜), 体育行事に向けた取組</li> <li>・基本的生活習慣の啓発 ハローウォーク, 生活リズムチェック</li> </ul>	<p>○ほぼ全員が「友達と仲良く生活している」(97%)「自分の学級が楽しい」(100%)と感じており、学校生活の安定が推察される。</p> <p>○6年生の班長をリーダーとする縦割り班活動が学校に根付いており、落ち着いた学校生活の土台となっている。</p> <p>●「自分には良いところがある」について否定的に答える児童が14%もいる。自分の良さを感じられないことが、何事に対しても否定的に捉えることにつながっている傾向がある。</p> <p>●「早寝早起き朝ごはんができています」と答える割合が児童85%保護者84%に留まっている。</p>	B
学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○確かな学力の定着と自立する力の育成 指導内容・方法の工夫改善, 学習習慣の定着化 学力検査の分析・活用, 読書活動の推進 進路活動・キャリア教育の推進</li> <li>○学校力・教職員力の向上 専門的支援体制の充実, チーム学校の構築 教職員の研修・研究活動の充実 特色ある学校づくり, 学校評価, 校務スリム化</li> <li>○保小中高連携による系統性のある教育推進 幼児教育と学校教育の連携と推進 小中連携と一貫教育の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研の実施 事前研に力点, 講師招聘による研修</li> <li>・全校体制での加力学習(火・木曜日放課後) 基礎基本の確実な定着を目指す</li> <li>・タブレット活用学習の推進 ドリル学習で学習意欲向上を図る</li> <li>・高知新聞への投稿 帯タイムに書いた短作文を投稿する</li> <li>・読書活動の推進 読み聞かせの実施, 必読図書の設定</li> </ul>	<p>○授業改善研究を計画的に進めることができた。毎回講師を招聘し、事前研究会も行うことができた。</p> <p>○多くの児童がタブレットを活用したドリル学習に積極的に取り組んだことにより、学習の基礎基本の定着を図ることができた。</p> <p>●「授業が良く分かる」と60%の児童が答えているが、保護者は26%に留まっている。保護者には、学力への不安感があるのではないか。</p> <p>●「家で本を読んでいる」について、否定的な児童が40%に達している。家庭と協力して、本に親しむ機会を作ることが必要ではないか。</p>	B
ふるさと教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○佐川らしい教育の推進 郷土の偉大な先人や地域人材に学ぶ教育 地域資源を活用したふるさと教育の推進 自然を活用した体験学習・環境教育の推進</li> <li>○文化芸術活動・伝統文化の継承 学校における文化・芸術活動の推進 伝統文化を学ぶ機会の充実 地域資産を活用した学習機会の提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に学ぶ学習 りんご狩り, 茶摘み, 防災学習</li> <li>・地域の特産物の栽培 キュウリ(低), イチゴ(中), 米(高)</li> <li>・黒岩城学習 黒岩城を地域の誇りとして認識する</li> <li>・伝統芸能の学習 四ツ白太刀踊り, 瑞応盆踊り</li> <li>・地域学校協働本部事業の活用 地域の協力で教育活動を充実させる</li> </ul>	<p>○黒岩城学習により、地域の歴史や伝統芸能の背景を知ることができた。また、パンフレットやプログラミング作品など成果を得られた。</p> <p>○地域学校協働本部事業による学校支援ボランティアの活用場面が昨年度より増えた。</p> <p>○ほとんどの児童が「地域をもっと良くしたい」と答えている。(92%)</p> <p>●「子どもが地域をもっと良くしたいと思っている」と保護者が答える割合は39%に留まっており、あまり肯定的に捉えていない。ふるさと学習の成果を、保護者に十分に伝えられていないのではないか。</p>	A